技術部報告集発刊に寄せて

技術部長　　花岡　　裕

技術部報告集の発刊も今年で４回目を迎えることになり、報告集の体裁や編集方針がようやく軌道にのったように思われます。ここまでにたち上げ、育成されてこられた歴代の技術部長のご努力、技術職員の熱意、ならびに関係教職員の並々ならぬご理解とご協力に対し改めて敬意を表しますとともに感謝申上げます。

本年４月から、夜間部主事併任の形で技術部長を拝命することになりました。お陰様で、この１年間、オブザーバーとして参加した昨年度の技術部発表会や数回の技術部会議を通してようやく技術部組織の全貌や技術部構成員の顔と名前を知ることが出来ました。実際のところこのような立場に立つまで技術部組織の存在は知っていたもののどのような活動がなされているのかはあまり承知はしていませんでした。

つい先日、大学改革シリーズ（５）、室蘭工業大学自己点検・評価の総括評価報告書「新しい風ー小さくてもきらりと光る大学を目指して」が刊行されました。この中で、技術部が本学の教育研究支援組織として重要な役割を担っている意味から、技術部組織の現状と課題について触れさせていただきました。平成５年度からの技術部の組織化により確かに学科講座を超えた技術職員同士の交流、情報交流の活発化や一般・専門研修会参加を通して各自技術職員の内発的な意識向上がもたらされたと思われます。しかしなお、まだ解決すべき多くの問題が残されていると考えます。第１は、教室系技術職員の専門行政職移行への見通しが未だ得られていないことです。平成７年度末に国大協として上記要望書が文部省に再提出されましたが、文部省としては各大学の実情に鑑み、より高度な専門的知識を活かす仕組をさらに模索させ、当面実績作りが必要との見解に立っているようであります。第２に、本学特有の職制組織上の配置でありますが、現状では必ずしも適正とはいえず、ある特定の専門分野に偏りが見られます。実態に合わせた組織再編成が必要ではないかと考えております。第３は、平成９年度からスタートする情報メディア教育センター、機器分析センター設置に伴う技術職員の再配置の問題であります。今後も引続き受入れざるを得ない定員削減計画との絡みで、従前からの教官あるいは研究室に張付いた現態勢を最早維持するのが困難であり、早晩、各部局のみの派遣方式への移行、あるいは専門職員の分野に合わせ、ある特定の技術をもった職員を一定期間派遣するなどを検討せざるを得なくなっている時期にあると云えます。これらはもちろんのこと、全学の教職員の理解と協力が前提になります。

大学をとりまく教育研究環境は益々厳しく、まさに冬の季節です。このような状況に対処するには、個々人の自覚と不断の技術研鑽、あるいは研究を通しての自己向上への努力しかありません。この技術報告集はまさに専門職技官の唯一の研究発表の場であり、そのような意味から今後とも重要な役割を担い、質の向上を図らなければならないと思います。学内教職員各位におかれましてはどうか技術部の活動を見守っていただき、また技術職員の研究・研修報告会の機会には多数来聴され、励ましやご助言を賜りますようお願い申しあげます。